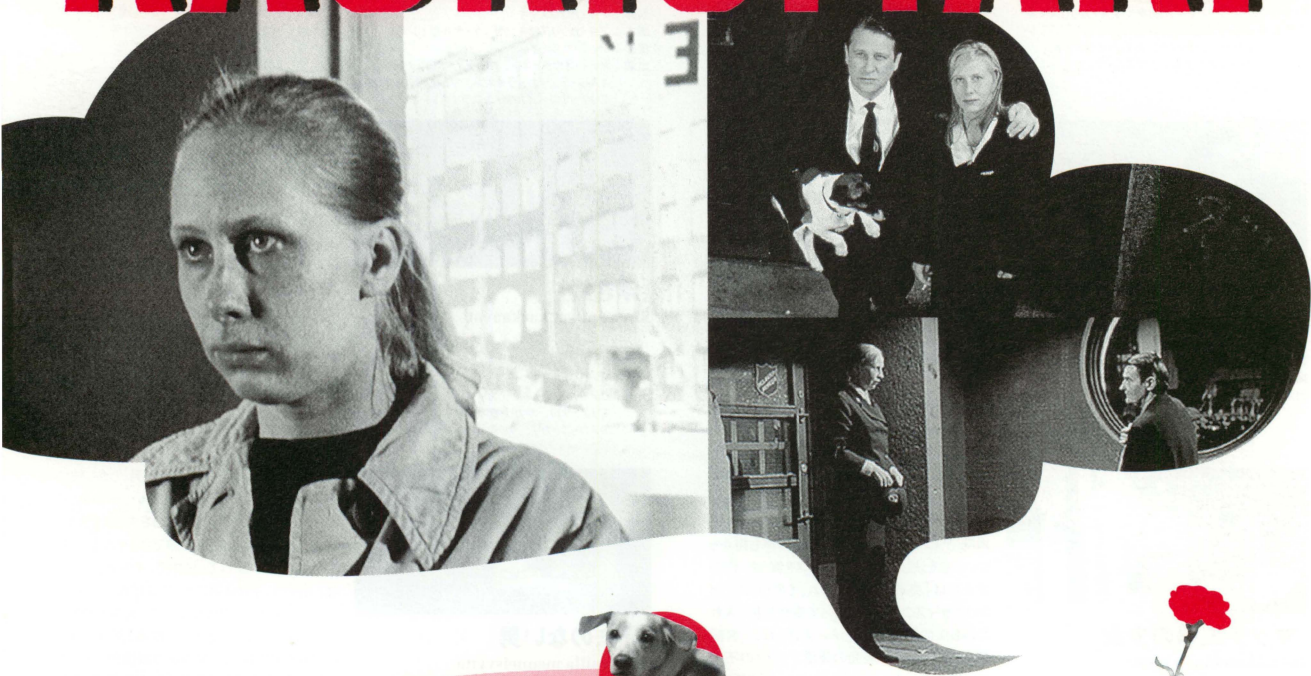


Lights IN KAURISMÄKI



RIKOS JA RANGAISTUS Varjoja paratiisissa Ariel Tulitikkutehtaan tyttö
I Hired a Contract Killer Pidä huivista kiinni, Tatjana
Kauas pilvet karkaavat Mies vailla menneisyyttä

『街のあかり』公開記念

カウリスマキのあかり ふたたび

配給：ユーロスペース



カウリスマキのあかり ふたたび

大好評だった特集上映「カウリスマキのあかり」から、選りすぐりの8本をアンコール上映!

上映作品



『罪と罰』

Rikos ja rangauistus

1983年/フィンランド/カラー/35mm/93分
製作:ミカ・カウリスマキ/脚本:アキ・カウリスマキ
撮影:ティモ・サルミネン
出演:マルック・トゥッカ、アイノ・セイッパ
エスコ・ニッカリ、マッティ・ペロンパー

ドフトエフスキー名作「罪と罰」に挑んだカウリスマキの野心漲る驚異の長篇デビュー作。食肉解体工場に勤める青年ライヒカインゲンがある男を射殺した。現場で目撃していたケーターリング業者のエヴァは警察での証言を偽り、二人の間に次第に奇妙な共犯関係が生まれていく。舞台をヘルシンキに置き換え、ヒッチコックが著作「映画術」の中で「ひとことも削除できない」と言った原作の核心を大胆にすくいて、殺人者ラスコーリニコフ=ライヒカインゲンの葛藤を、台詞を抑え、画面と描写の力で描き出す。



『パラダイスの夕暮れ』

Varjoja paratiisissa

1986年/フィンランド/カラー/35mm/75分
製作:ミカ・カウリスマキ/脚本:アキ・カウリスマキ
撮影:ティモ・サルミネン
出演:マッティ・ペロンパー、カティ・オウティネン
サカリ・クオスマネン、エスコ・ニッカリ

<労働者3部作>の第1作目。マッティ・ペロンパー、カティ・オウティネンという、カウリスマキ作品を支える二人が初めて主役した。悲哀に満ちた恋の物語。ゴミ収集車のニコンデルは同僚の死に直面し、スーパーのレジ係、イロナをデートに誘うが失敗。一方イロナは突然職場をクビになり、会社の金を持ち逃げしてしまっ…。現実の厳しさに洗われ、ざくざくと進展する恋の行方を、シブシブな描写で見つめていく初期の傑作。ヘルシンキの街の朝の光や、夜のアパートの一室を捉える見事な撮影、挿入音楽の歌詞が醸し出す情感が、深い余韻を残す。



『真夜中の虹』

Ariel

1988年/フィンランド/カラー/35mm/73分
製作:脚本:アキ・カウリスマキ
撮影:ティモ・サルミネン
出演:トゥロ・バヤラ、マッティ・ペロンパー
スナンナ・ハーヴィスト、エートウ・ヒルカモ

<労働者3部作>の2作目は後の「過去のない男」の原点とも言える。不幸に見舞われ続ける男の物語。ラップランドの鉱山夫カスリネは、鉱山の閉鎖と父の自殺に直面し、有り金を持って父の残したオープンカーで南へと向かう。だが、暴漢たちに金を奪われ、日雇いの労働で食いつなぐ日々に、1人の女性と出会って掴んだ幸せも束の間、暴漢を見つけてした仕返し、今度は彼を刑務所へ追いやるハメに…。フェード・アウトで繋がる不幸な出来事の連鎖に、ふと挟まれるユーモア。ラストにフィンランド語で流れる「虹の彼方に」が見る者の胸にしみる。



『マッチ工場の少女』

Tulitikkutehtaan tyttö

1990年/フィンランド+スウェーデン
カラー/35mm/70分
脚本:アキ・カウリスマキ/撮影:ティモ・サルミネン
出演:カティ・オウティネン、エリナ・サロ
エスコ・ニッカリ、ヴェサ・ヴィエリッコ
シル・セッパラ、レイヨ・タイノル

カティ・オウティネン演じるサエない少女が主人公の<労働者3部作>の最終章。マッチ工場に勤め、母とその愛人を養うイリスは、身なりも地味でダンス・パーティーで踊る声も掛からない。意を決して給料日にドレスを買うも、母の愛人には「売春婦」となじられ、そのドレスで出かけたディスコで男と出会って幸せを手に入れたのも束の間、遊びだったと告げられる。台詞をほとんど用いず、画面の連鎖でイリスの不幸な境遇を浮かび上がらせる演出は、<敗者3部作>の3作目である最新作「街のあかり」に受け継がれている。洗練と毒の極まった代表作の1本。



『コントラクト・キラー』

I Hired a Contract Killer

1990年/フィンランド+イギリス+ドイツ+スウェーデン
カラー/35mm/80分
製作:脚本:アキ・カウリスマキ
撮影:ティモ・サルミネン
出演:ジャン＝ピエール・レオー、マージ・クラーク
ケネス・コリー、セルジュ・レジアニ
ジョー・ストラマー

ジャン＝ピエール・レオーを主役に迎えたアキが、スタジオではなくロンドン・ロケに挑んだ作品。フランスに居場所をなくし、ロンドンの水道局で働くアンリは、ある日突然解雇を言い渡され、絶望して自殺を図るが失敗。新聞記事で「契約殺人」(コントラクト・キラー)の存在を知った彼は自らの殺しを依頼するも、その後、花売り娘マーガレットと初めての恋に落ち、アンリは殺し屋から逃げ続けるハメになる。カウリスマキが生涯のベストに挙げた「肉体の冠」(ジャック・ベッケル監督)のセルジュ・レジアニも出演するなど、過去の映画への敬意と愛情が満ち溢れている。



『愛しのタチアナ』

Pidä huivista kiinni, Tatjana

1994年/フィンランド/モノクロ/35mm/62分
製作:脚本:アキ・カウリスマキ
脚本:アキ・カウリスマキ、サッケ・ヤルヴェンパー
撮影:ティモ・サルミネン
出演:カティ・オウティネン、マッティ・ペロンパー
キルシ・テュキュライネン、マト・ヴァルトネン
エリナ・サロ、イルマ・ユライネン

母年に煙草を吸っては叱られ、コーヒーが切れていても「明日」とすぐなされる仕立屋のヴァルト。カッとなってクローゼットに母親を閉じ込め金を持ち出した彼は、修理した車の試運転に修理工のレイノを乗せ、道すがらバーへ向かう。店で出会ったロシア女性クラウディア、エストニア女性タチアナに「港まで送ってほしい」と声を掛けられた彼らは、この願いを引き受けた。数日にわたる車での旅は、無口な男たちと、彼らを呆れながらも微笑み見つめる女たちの距離を、ゆくり近づけていく。常連キャストが顔を揃えた愛すべき小品。



『浮き雲』

Kauas pilvet karkaavat

1996年/フィンランド/カラー/35mm/96分
製作:脚本:アキ・カウリスマキ
撮影:ティモ・サルミネン
出演:カティ・オウティネン、カリ・ヴァーナネン
エリナ・サロ、サカリ・クオスマネン
エスコ・ニッカリ、サッケ・ヤルヴェンパー

「過去のない男」そして「街のあかり」へと続く<敗者3部作>の第1作。失業の深刻化を受け「映画にできることは希望を与えること」と、ハッピーエンドで締めくくられた本作は、これまでの作風に磨きを掛け、より深い人間的な温かみを刻み込んでいる。ヘルシンキの名門レストランの給士長イロナと、路面電車の運転手ラウリは仲のよい夫婦。慎ましい生活を送っていた2人だが、ラウリはリストラ、イロナは閉店で時を前後して失業してしまう。それぞれ見つかった職も上手くいかず災難が続く中、イロナは意を決し夫と新しいレストランをオープンする計画を立てる…。



『過去のない男』

Mies vailla menneisyyttä

2002年/フィンランド/カラー/35mm/97分
製作:脚本:アキ・カウリスマキ
撮影:ティモ・サルミネン
出演:マルック・ベルトラ、カティ・オウティネン
ユハ・ニエミラ、アンニッキ・タヒティ、タハティ

ヘルシンキに流れ着いたひとりの男。しかし彼は暴漢に襲われ瀕死の重傷を負い、一命をとりこめるとも、過去のすべての記憶を失ってしまう。過去を失った男は絶望の淵でささやかな人生をひとコマずつ重ねていく中で、イルマという女性と出会う。それは男にとっては初めての、あたたかみで満ち足りた思いとなって、人生をやわらかく包み込むのだった…。<敗者3部作>第2作である本作は、ミニマルかつ叙情的、ユーモラスで牧歌的でありながらも人生の苦渋を浮かび上がらせセクハラ国際映画祭でグランプリと主演女優賞を見事ダブル受賞したカウリスマキの代表作。

8.11土 ▶ 8.31金 連日夜9:00より1回上映

【上映スケジュール】

- 8月11日(土)～13日(月) 『罪と罰』
- 8月14日(火)～16日(木) 『真夜中の虹』
- 8月17日(金)～19日(日) 『パラダイスの夕暮れ』
- 8月20日(月)～22日(水) 『マッチ工場の少女』
- 8月23日(木)、24日(金) 『コントラクト・キラー』
- 8月25日(土)、26日(日) 『愛しのタチアナ』
- 8月27日(月)～29日(水) 『浮き雲』
- 8月30日(木)、31日(金) 『過去のない男』

入場料金: 一般・大学専門学校生1300円/会員・シニア1100円
高校生800円/中学生以下500円

*「街のあかり」前売券をご提示で1000円

*びあミニシアター回数券もお使いになれます。

渋谷・文化村前交差点左折

EUROSPACE

tel.03-3461-0211 www.eurospace.co.jp

